

学年	教科等	主題(教材)名	日時
第1学年	道徳科	正しいと思うことを(やめろよ)	令和8年2月6日(金)

## 1 本時のねらい

こんきちが意地悪をやめず、ぴよんこが泣き出す場面でのぼんたの気持ちを考えることをとおして、よいことと悪いことを正しく区別し、判断することの大切さや、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちに気づき、よいと思うことを進んで行おうとする態度を育てる。

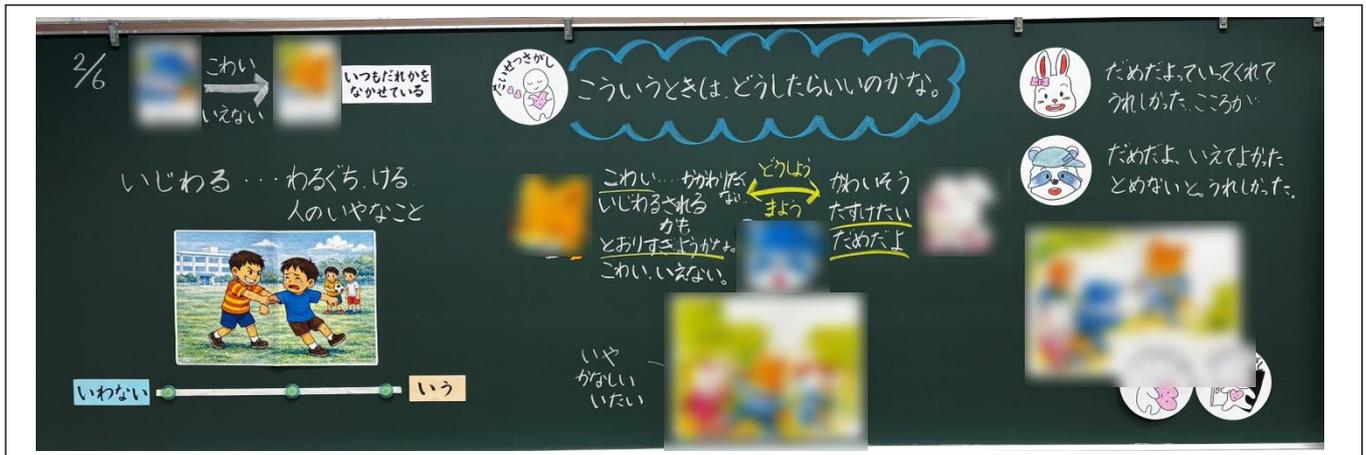
## 2 指導過程

学習活動及び学習内容(◇は発問)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 道徳的問題を自分事として捉え、考え始める。</p> <p>○ 自分ならどうするかについて</p> <p>◇ 目の前で意地悪している友達を見たとき、どうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ だめだよと言える。</li> <li>・ 言えない。嫌なことをされるかもしれない。</li> <li>・ どうするか迷う。 等</li> </ul> <p>○ 問い</p> <p>□ <u>こういうときは、どうすればよいのかな。</u></p> <p>2 教材に含まれる道徳的価値について考える。</p> <p>○ ぴよんこの耳を引っ張るこんきちを見た、ぼんたの気持ちについて</p> <p>◇ こんきちのしていることを見て、ぼんたはどんなことを思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そんなことをしたらだめだよ。</li> <li>・ ぴよんこがかわいそう。</li> <li>・ こんきちが怖い。どうしよう。</li> <li>・ 自分もいじめられるかもしれない。 等</li> </ul> <p>◇ (そのまま通り過ぎようとする)ぼんたの気持ちは、分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分にもある。</li> <li>・ 怖いから、言えないかもしれない。 等</li> </ul> <p>○ こんきちが意地悪をやめず、ぴよんこが泣き出す場面でのぼんたの気持ちについて</p> <p>◇ 意地悪をやめないこんきちを見て、ぼんたはどんなことを言ったのでしょうか。</p> <p>(役割演技：ぼんた)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぴよんこがかわいそうだよ。</li> <li>・ ぴよんこが嫌がっているよ。 等</li> </ul> <p>(役割演技後：ぴよんこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 怖かったけど助けてくれて嬉しい。</li> <li>・ ありがとう。 等</li> </ul> <p>(役割演技後：ぼんた)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちゃんと言ってよかった。</li> <li>・ 怖いけど、言えた方がすっきりする。 等</li> </ul> <p>3 教材をとおして考えたことを基に、善悪の判断についての価値の理解を深める。</p> <p>○ 正しいと思うことを行うことのよさについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちゃんとこんきちに言えて偉いね。</li> <li>・ 勇気を出して言えたね。 等</li> </ul> <p>4 学習全体をふりかえり、自己の生き方についての考えを深める。</p> <p>○ 正しいと思うことを行うことのよさについて</p>	<p>○ 子どもの日常生活のなかにある、教材と似た場面をイラストで提示し、どうするか問うことで、普段の自分を見つめ直し、本時で扱う道徳的価値について自分事として捉えることができるようにする。</p> <p>○ 心のものさしを用いて、考えを黒板上に可視化し、互いの考えの違いに気付かせることで「問い」をもつことができるようにする。</p> <p>○ 「意地悪はいけない。」という考えと「こんきちが怖い。」「自分もいじめられるかもしれない。」という考えに分けて板書することで、ぼんたの気持ちの葛藤を捉えることができるようにする。</p> <p>○ 教師は「怖い顔で、にらんでくるよ。自分もいじめられるかもしれないね。」と語りかけることで、正しい判断について理解していても、行動に移すことは簡単ではないことに気付くことができるようにする。</p> <p>○ こんきちが意地悪をやめず、ぴよんこが泣き出す場面での、役割演技の場を設定し、教師がこんきち役になって「遊んでいるだけだよ。」と問い返すことで「だめなことはだめだ。」と、正しい判断をすることの大切さについて、実感をもって理解することができるようにする。</p> <p>○ 役割演技の後に、ぼんた役やぴよんこ役に気持ちを問い、全体で共有することで、正しいことを言えてよかったという気持ちに気付くことができるようにする。</p> <p>○ ぼんたへの手紙を書かせることで、ぼんたの行動を見つめ直し、よいことと悪いことを正しく判断することの大切さや、よいと思ったことができたすがすがしさに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 手紙を自由に交流し、称賛したり、共感したりする場を設定することで、よいと思うことを進んで行うことの大切さに気付くことができるようにする。</p>

### 3 本時の評価の視点

よいことと悪いことを正しく区別し、判断することの大切さや、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちに気付き、よいと思うことを進んで行おうとしている。【道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりのなかで深めているか】

### 4 板書



### 5 指導講評

#### 宮崎県教育庁 義務教育課 大竹 進太郎 指導主事

- どのような授業でも、その授業でどのような資質・能力を身に付けたいのかというところが大切である。それによって、中心発問の捉え方も変わってくる。
- 1年生の授業においては、子どもから「こんきち役をやりたい。」「こんきちはどんな気持ちかな。」等の発言が出された。あの発言を生かしてもよかった。
- 附属小学校の特色を生かして、幼・小・中と系統性のある授業づくりをするとよい。学習指導要領を比べて読んでみるとよい。
- 授業では資質・能力を身に付けることが大切である。本授業の手立てが、資質・能力の育成につながっているのかということを検証していくことが大切である。
- 附属小が、今身に付けなければいけない資質・能力は何かを考え、高いレベルで研究をされている。目標と指導と評価を意識しながら、筋の通った授業を意識して、授業づくりを楽しんでほしい。

### 6 考察

#### 【研究内容1：子どもが、自ら「問い」をもつための手立て】

今回の授業では、教材と似た場面をイラストで提示し、目の前で意地悪をしている仲間を見たらどうするかについて判断を問い、自分事として考え始めることができるようにした。提示したイラストに対して子どもたちは素直に反応し、「かわいそう。」「注意しないと。」「自分もされるから言えないかもしれない。」等、自分事として考え始める姿が見られた。その際、心のものさしを用いて、考えを可視化して示したことで、互いの考えの違いに気付き、本時のテーマへと向かう子どもたちの姿が見られたため、有効な手立てであった。

#### 【研究内容2：子どもが、物事を多面的・多角的に考え、納得解を生み出そうとするための手立て】

今回の授業では、こんきちが意地悪をやめず、ぴよんこが泣き出す場面について、役割演技の場を設定した。「遊んでいるだけだよ。」とこんきち役になって問い返したり、役割演技を終えた後の気持ちを聞いたりすることで、正しいと思ったことについて進んで行動することや、正しいことができた後のすがすがしい気持ちについて考えることができるようにした。役割演技では「こんなに意地悪をするこんきちが許せない。」と強い態度で話す姿が多く見られた。応答予想を立てていたものの、想定しきれない部分があり、子どもたちから「こんきち役をやりたい。」や「こんきちはどんな気持ちなの。」という発言が出されたが、こんきちに焦点が当たりすぎると、本時のねらいからそれてしまうことが想定されたので、深く扱わなかった。子どもの意見のつながりや思考の流れをどのように整理し、問い返したり、可視化したりしていけばよいかについては、今後さらに検討が必要である。終末では、手紙という形で、道徳的価値についての自分の考えを整理させたことで、クラスの半数近くの子どもたちが、これまでの経験と重ねて考えており、これからは、こうしていきたいという思いをもつことができていた。